

講義 I

段落（パラグラフ）を 意識した文章作成

アカデミック・ライティング A

第9回

この講義で学ぶこと

- **段落 (パラグラフ) の作り方**
 - 論説文を書く際に、読み手に伝わりやすい基本的な文の組み立てを知ろう。
- **段落のアウトライン**
 - 実際に文章を作成する前に準備すべきことを学ぼう。

段落とは何か

- 段落とは

- 話題ごとに設定される文章上の単位（かたまり）。
1つの話題で1つの段落。

- 段落の機能

- 話題の区切りを視覚的に明確にする（読み手への配慮）。段落の頭は1字下げで始める。

話題ごとに整理して書く理由

大学生のうちにバイクで北海道一周の旅に出たい。もともと一人旅に憧れていたのと、兄から古いバイクを譲り受けることになったからだ。一周の達成感と旅の感動は大学生活の良い刺激になるはずだ。しかし、一周となると旅費もかさむ。何日かの寝食が必要となるし、古いバイクのメンテナンスにも費用が掛かる。安全で充実した旅にするため、計画的に20万円を貯金する必要がある。

話題を意識せず、区切らずに書き連ねると…

- どこで何の話題が書いてあるかわからない
- 同じ話題や表現が重複するおそれあり
- 読み手に大きな負担

話題ごとに整理して書く理由

大学生のうちにバイクで北海道一周の旅に出たい。もともと一人旅に憧れていたのと、兄から古いバイクを譲り受けることになったからだ。一周の達成感と旅の感動は大学生活の良い刺激になるはずだ。

しかし、一周となると旅費もかさむ。何日かの寝食が必要となるし、古いバイクのメンテナンスにも費用が掛かる。安全で充実した旅にするため、計画的に20万円を貯金する必要がある。

話題ごとに段落を分ける

- 話題：バイクで北海道一周をしたい理由

- 話題：一周の旅のためには旅費が必要

話題ごとに改行することで視覚的にわかりやすい

段落の長さに関する注意

- 1つの段落(1つの話題)は長すぎないほうがよい。
- 1つの段落は長くても400字程度
 - 原稿用紙1枚分くらい。
 - これ以上長いと、必ず別の話題が混ざっている(脱線している)はず。
 - 話題が変わるなら段落も変える。

段落の内部構成

- 段落は以下の2つの要素で構成される。
- 話題文
 - 段落の話題を表す1つの文。
- 展開文
 - 話題文の内容を詳しく展開し補足していく複数の文。
 - したがって、1つの文のみで構成される段落は存在しない。

話題文と展開文

話題文

段落の最初に話題文を書く

大学生のうちにバイクで北海道一周の旅に出たい。もともと一人旅に憧れていたのと、兄から古いバイクを譲り受けることになったからだ。一周の達成感と旅の感動は大学生活の良い刺激になるはずだ。

しかし、一周となると旅費もかさむ。何日かの寝食が必要となるし、古いバイクのメンテナンスにも費用が掛かる。安全で充実した旅にするため、計画的に20万円を貯金する必要がある。

展開文

話題文が示す話題について具体的な説明をする展開文

話題文と展開文の構成

- **話題文**

- 段落の冒頭に1つの文で書く。
- その段落で展開する話題の要約（話題の要点、話題の方向付け、問題提起など）を書く。

- **展開文**

- 話題文の後に、話題を具体的に展開する（説明・事例・補足・定義など）文を書く。
- 展開文は複数書いて話題をふくらませる。
- ただし、話題と関係のない文は書かない（脱線しない）。話題が変わったら段落を変える。

段落（話題）を意識して書く

テーマ：英語教育

中学校・高校とも教科書に沿った授業がおこなわれた。中学校では教科書に載っている会話を中心とした例文を覚えることが多かった。高校ではリーディングとライティングの2種類の教科書があった。ライティングの教科書には文法の説明もあり、そこで文法構造について学んだ。

話題文

この段落の話題要約



展開文

中学と高校の授業が、いかに教科書中心だったかを説明する。

※それ以外は脱線

段落を変えるタイミング

- 話題が変わるところ

- 1つの話題から別の話題に移るとき（次に、さらに、しかし、…）。
- 新しい主張や見解を述べるとき（ところで、一方、…）。
- 対立する考えを挙げて批判したり、反論したりするとき（ところが、これに対して、…）。
- 取り上げる題材が変わるとき。

段落のアウトライン

- はじめから文章を書くのではなく、アウトライン（設計図）を書いてから文章化すること。
- 手順
 - (1) 段落の話題を決める←キーワードのメモでOK
 - (2) 話題を展開する。←メモ程度でOK（複数あげる）
 - (3) 必要に応じて展開項目をさらに展開する。
 - (4) 話題を話題文として文章化する。
 - (5) 展開項目ひとつひとつを、それぞれ別々の展開文として文章化する。

段落のアウトラインは重要

- アウトライン（完成までの設計図）なしで書き始めると…
 - なにを書けばいいのか、話題が整理できない。
 - ゴールが見えない（時間がかかる上に**まとまりのない文章**になってしまう）。
- 最初は思うように書けなくても、アイデアを書き出して頭を整理していこう。